

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2021年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
山田 孝子
(教務機構)

1. 長期戦略のテーマ

| 超長期ビジョン | 長期戦略(テーマ名) | 統轄部署 |
|---|--------------|------|
| 1 学士課程教育 | (13) 学修支援の充実 | 教務機構 |
| 内容 | | |
| <p>大学教育において、学生が学修成果を修得するためには、正課における授業に加えて、授業外での多角的な学修支援が重要となる。このため、学生の多様なニーズに対して個別に対応した学修支援の充実を図る。</p> <p>(ライティングセンター)</p> <p>文章表現力は、論理的思考力など汎用的能力の基礎となるもので、初年次または低年次に徹底して訓練することでその後の大学教育の成果が大きく左右される。これは、学部における基礎演習などの正課科目において身に付けるものであるが、補完的な役割として学生が必要に応じて対面でスタッフから指導や助言、添削等を受けられる「ライティングセンター」を設置する。一般的にライティングセンターは、①レポートを含めた一般的な文章作成②留学生対象の日本語論文作成③日本語での論文作成④英語での論文作成など種々の要望に応じた支援機能を有するが、本大学は最もニーズが高いと想定される①と②に重点を置いてスタートする。</p> <p>スタッフとしては、本大学の学生や大学院生を訓練して活用することをめざすが、特に大学院生の人数が少ないことなどから、開設当初は他大学の博士課程修了者等の活用も視野に入れる。将来的には専門職の職員の雇用についても検討する。</p> <p>また、センターの開設にあたっては、学部の基礎演習などの正課科目と連携し、必要に応じて担当教員から学生にセンターの利用を促す仕組みを構築することで相乗的な効果をめざす。</p> <p>(学修相談)</p> <p>学修相談を行う仕組みとして、本大学では演習担当者が各演習を通して学生支援を行うことを基本としつつ、各教員がオフィスアワーを設定して広く学生の個別相談に応じたり、学部にアカデミックアドバイザー(専任教員)を置き、成績不振学生に対する個別指導を行っている。一般的に学修相談の内容は、①履修登録時のアドバイス、②学問領域についての相談、③生活指導等の三つに分かれるが、①、③については職員が分担可能な領域でもあるため、教職協働による学修支援の新たな仕組みへと発展させ、教員の負担を軽減させる。また、支援を補強するツールとして、学生の多様な情報・データを蓄積した「e-学生台帳」を構築し、活用することをめざす。</p> <p>(TA・LA・SAの活用)</p> <p>TA・LA・SAを一層有効に活用するため、現行ある諸制度の整理、見直しを図り、授業での教育支援(教員への支援を含む)、授業外での学修支援を強化する仕組みを再構築する。</p> <p>【フェーズⅠのTotal Review】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要大学の多くが導入しているライティングセンターを本学に導入することができた。特に先行している早稲田大学の事例を参照し、良いプログラムを構築している。 ・学修に関わる支援や授業中の支援など、既存施策をより充実させるべく実施しているが、抜本的な改革にまでは取り組めていない。 <p>【フェーズⅡに向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な授業形態に合わせた対面・Webによる学修支援体制の検討(専門人材の配置含む) ・ライティング科目におけるオンデマンド授業化の推進 ・学生カルテの活用方策の検討(学内各部署が連携し、本人の多様なデータを活かして学生一人一人をサポートすること) ・学修が遅滞気味の学生への学修支援方策の検討 | | |

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2021年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

教務機構長
山田 孝子
(教務機構)

指標 1

| 指標 | 内容 | | | | | |
|----------------|--|-------|------------------|--|------------------|--|
| 指標名 | 大学教育への満足度：学習支援や個別の学習指導 | | | | | |
| 定義・算式 | 共通学生調査(IR上級生調査)の項目「大学教育への満足度：学習支援や個別の学習指導」の「とても満足」と「満足」の合計 | | | | | |
| 現状値 (指標設定時) | 30.1% (2016年度)、31.0% (2017年度) | | | | | |
| 目標値 | フェーズ1終了時(2021年度) | | フェーズ2終了時(2024年度) | | フェーズ3終了時(2027年度) | |
| | 36%以上 | | 43%以上 | | 50%以上 | |
| 実績値 | 2019年度 | 33.2% | 2022年度 | | 2025年度 | |
| | 2020年度 | 22.2% | 2023年度 | | 2026年度 | |
| | 2021年度 | | 2024年度 | | 2027年度 | |

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2021年 8月 24日

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) | 教務機構長 山田 孝子 (教務機構) |
|-----------------------|--------------------------|

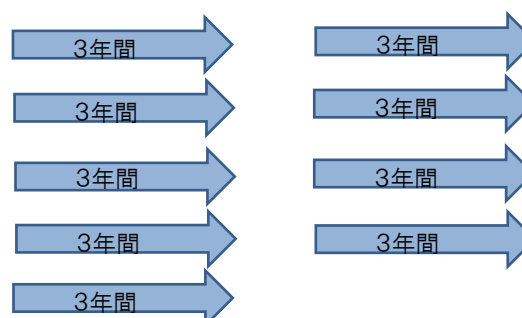
2. 実施計画ロードマップ

| 実施計画 | | 担当部署 | 学部・研究科での 取組み有/無 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|-------|--------------------------|-------|------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ① | ライティングセンターの設置 | 教務機構、 | 必要なし | | 3年間 | | | 3年間 | | | 3年間 | |
| ② | 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立 | 教務機構 | 必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須) | | 3年間 | | | 3年間 | | | 3年間 | |
| ③ | TA・LA・SAの活用促進 | 教務機構 | 必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須) | | 3年間 | | | 3年間 | | | 3年間 | |
| ④ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑤ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑥ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑦ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑧ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑨ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑩ | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| 【備考欄】 | | | | | | | | | | | | |

※想定される実施計画の例示

- ①. ライティングセンターの設置
- ②. 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立
- ③. e-学生台帳の構築・活用
- ④. TA・LA・SAの活用促進
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2021年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
山田 孝子
(教務機構)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

| 費用計画・人員計画 (単位：万円) | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計 | 非公開 | | |
| 人件費合計 | | | |
| 総計(経費+人件費) | | | |

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

| 費用計画・人員計画 (単位：万円) | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計 | 非公開 | | |
| 人件費合計 | | | |
| 総計(経費+人件費) | | | |

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

| 費用計画・人員計画 (単位：万円) | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計 | 非公開 | | |
| 人件費合計 | | | |
| 総計(経費+人件費) | | | |

4. 進捗状況等記入欄

| | 進捗状況および今後の課題、方向性 |
|--------|---|
| 2019年度 | ライティングセンターでは2020年度春学期より学士課程学生向け科目を開講し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも順調なスタートを切ることができている。TAについては、2021年度以降の定期試験期間の短縮による試験監督者の補填策として学部間での協力体制の検討、また、LAについては、オンライン授業でも活用できる方法を模索中である。 |
| 2020年度 | 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。アカデミックアドバイザー(以下、AA)による面談が実施できなかった学部があった一方で、AAによる面談後、修得単位数に改善が見られた学部もあった。これら成果が上がった学部の対象者抽出基準や面談内容を分析することで、AAを通じた全学的な学習支援をより効果的かつ効率的なものに変えていくことが今後の課題である。また、TAやLAも当初対面で実施予定であった科目がオンライン授業へ移行した影響を受け、予定どおりの業務を行えなかったケースが散見された。こうした背景もあり、LAを対象としたアンケートからは、LA制度のより良い運用を目指すための意見が読み取れた。これらの意見を基に、LA制度運用のためのガイドラインを作成する等の検討を進めていく。 |
| 2021年度 | |
| 2022年度 | |
| 2023年度 | |
| 2024年度 | |
| 2025年度 | |
| 2027年度 | |